

大阪国語教育アゼンブリー2019 <開催要項>

— ことばの教育の海へ —

「大阪国語教育アゼンブリー」は今年で7回目を迎えます。毎年、全体会でのご経験やご見識に基づいたお話をきっかけとして、分科会では豊かな実践をご発表いただき、深めてきました。全体を通して設定されるテーマは、現在の課題をとらえなおすきっかけになるとともに、参会後は実践の活力となる、そんな集会として多くの方々にご参加いただきました。

新たな元号を迎える今年度の「大阪国語教育アゼンブリー」は、日々の実践を出発点とし、「ことばの教育」について様々な視点から考えていきます。

現在、様々な環境の変化とともに、世の中にあふれることばや日々交わされることばは流動的に変化しています。教室の中にあふれることばにも、様々な課題があります。例えば、一つの教材を扱うにも、識字への壁があり、日本語指導が必要な生徒がいる環境での授業。また、受験指導からうみだされた、自らのことばではない、誰かから与えられたことばで語られる授業。——これらの問題は、子どもたちがことばを獲得していくまでの環境の違いからうまれるものです。自分たちが使う何気ないことばの中に、自分や、自分が存在する社会の意識が現れてきます。自分のことばを知ることは、自分を、社会を知り、内在する課題を解決していくために必要な力になります。そして、流動することばを、自分のことばに置き換えることで獲得されたことばが、これからの社会を形成していきます。そんな、これからの社会を担う子どもたちに、ことばの教育に携わる私たちはいったい何ができるのだろうか。そもそも、広い視野でとらえたときに、「ことばの教育ってなんだ？」——今年のテーマはそんな現場での葛藤からうまれたものです。

全体会ではお二人の先生の実践を動画で共有します。それぞれの現場における実態に寄り添いながら、子どもたちにことばの力を身につけようと、悩みながらも目的をもって授業をされています。島崎英夫氏（大阪教育大学）には、これまでのご経験や現在のご実践をふまえ、お二人の先生と対談いただきます。リアルな実践から与えられるヒントは、どんな現場でも応用ができるものになることと期待しています。

分科会では、それぞれの担当者が中心となり、様々な視点から「ことばの教育」をとらえ、現在の課題を共有します。分科会の後は、再び全体で集まり、分科会での成果を共有します。

「自主的」「本質を問う」「参加者はことばの教育に関わるすべての人」「若い先生方に優しく」というコンセプトに加え、「うちでもできる！を見つける」を目標とし、明日の実践につながる何かお土産を持って帰ることのできる、夏のお祭りのような会として開催したいと考えています。お忙しい中とは存じますが、なにとぞご参会いただけますよう、お願い申し上げます。

■日 時 令和元年7月27日（土）13:00～17:00

■会 場 大阪府立今宮高等学校 多目的ホール・会議室 他

556-0013 大阪市浪速区戎本町 2-7-39 TEL06-6641-2612

（地下鉄大国町駅より南 300 ㌢、JR・南海新今宮駅より北西 300 ㌢）

13:00～13:20	受付
13:20～13:30	開会・概要説明 小山 秀樹（大阪府立今宮高校・指導教諭）
13:30～15:00	全体会 「ことばの教育ってなんだ？」—授業実践ビデオを手がかりに— 発表者 増田 優奈（大阪府立茨田高校教諭） 田仲 陽登美（大阪府立河南高校教諭） コーディネーター 島崎 英夫氏（大阪教育大学教授 本会元理事長）
15:00～15:20	休憩・移動

●増田 優奈（ますだ ゆな） 新規採用者として現任校に着任し現在3年目。「高校の時に古典やったなあ」と生徒の記憶に残る授業、筆者や登場人物の思いを汲み取れる能力の育成をめざし、授業実践に取り組んでいる。

●田仲 陽登美（たなか ひとみ） 新規採用者として現任校に着任し現在6年目。授業では1人でじっくり考える時間と、それをクラスで共有するという意識を取り組んでいる。

●島崎 英夫（しまぎき ひでお） 大阪教育大学教授（教職教育研究センター）。大阪府立高校3校で国語を教え、大阪府教育センター指導主事、府教委高等学校課参事や岬・堺西・清水谷3校の校長を歴任。大阪府高等学校国語研究会の前理事長。現在は、教員養成と教員研修について、研究と実践に取り組んでいる。著作に「市民としての力量」（『教育実践研究』第8号、2014）や「新しい“物語”づくり」（志水宏吉編『格差をこえる学校づくり』2011年4月、大阪大学出版会）等がある。2015年より『教育PRO』誌に「時評」を隔月で連載中。

15:20～16:20	分科会	〈次世代が自信を持つためには〉—確かな実践から探る—
第1分科会 〈現代文から探る〉 自分ってなんだ？ 正解のない問いに向き合う。考える。書く。毎日10分のこの取り組みを始めて一年余り。30字の短文が書けなかった生徒たちが、さらさら百文字書き出した。「自分ってなんだ？」を探し見究める作業です。自分の中から削り出したことばを使って。長尾高校がちょっとずつ変わり始めている、というお話です。 <p style="text-align: right;">岡田 一心（大阪府立長尾高校・指導教諭） 司会進行 西野 蘭（大阪府立三島高校教諭）</p>		
第2分科会 〈古文から探る〉 現代語訳の向こう側へ 品詞分解や現代語訳の先にある、ことばの教育に焦点をあてたワークショップです。『平家物語』を主な題材として、読み深めの実践を行います。 <p style="text-align: right;">笠原 美保子（神奈川県立横浜翠嵐高校教諭） 司会進行 円句 純子（大阪府立佐野高校教諭）</p>		
第3分科会 〈韻文から探る〉 短歌を詠んで小説を読む 『羅生門』『山月記』『こころ』などの小説を読み、登場人物になり切って短歌を創作するという実践に取り組んできました。他者の解釈の発見や読みの交流という観点から、小説の読みに短歌創作を活かす実践として報告いたします。 <p style="text-align: right;">青木 雅一（兵庫県立西宮高校教諭） 司会進行 野田 あゆみ（清風高校教諭）</p>		
第4分科会 〈日本語教育から探る〉 自己肯定感を高めることばの支援とは 日本語を母語としない生徒たちは「日本語ができない」というレッテルが貼られがちですが「○○語ができる」可能性を持ち備えています。学校生活に必要な教科学習言語能力(ALP)を踏まえ、自己肯定感を高めるユニバーサルデザインとしての日本語教育と国語教育の融合案を考えていきます。 <p style="text-align: right;">甲田 菜津美（大阪府立布施北高校教諭） 司会進行 永田 里美（明星大学准教授）</p>		
16:30～17:00	全体会	（分科会報告・連絡）・閉会

●岡田 一心（おかだ かずみ） 門真西高校から枚方津田高校を経て現任校。最近の関心事は人工知能。AIやロボットと一緒に楽しく働く人になるために必要なのはどんな力なのか。その力を得るために効果的なトレーニング方法を模索している。

●笠原 美保子（かさはら みほこ） 神奈川県立横浜翠嵐高校。2016年、17年に続いて3度目の分科会担当。（共著『認識力を育てる書き換え学習 中学校・高校編』、論文「文法指導に依存しない高校古典授業の試み」等）

●青木 雅一（あおき まさかず） 兵庫県立西宮高等学校に勤務。20代より精緻な授業を生徒目線で実施した実践報告を大学、高校の研究会で発表。2013年には大阪教育大学国語教育学会賞を受賞した。高等学校韻文指導の第一人者。「大阪国語教育アセンブリー2017」では司会進行を担当。直近では日本国語教育学会の機関誌「月刊国語教育研究」2019年4月号に「言語の獲得に寄与する創作指導」と題する実践論文を発表。

●甲田 菜津美（こうだ なつみ） 大阪府公立高校教員。Minami こども教室実行委員。東大阪JFCの活動にも関わりをもつ。大阪大学大学院言語文化研究科日本語・日本文化専攻博士前期課程終了。研究テーマは外国にルーツを持つ児童生徒の対話学習を主とした年少者日本語教育であった。ミャンマー・マンダレーにある日本語学校講師、インドネシアのBina Nusantara 大学人文学部日本語学科専門講師、北方四島交流事業における国後島日本語講師を経て、2017年より現職。

- 参加費 無料
- 主催 大阪府高等学校国語研究会 大阪府立今宮高等学校
- 協力 大阪府教育庁
- お申込み方法 別紙のFAX用紙か今宮高校HPよりお申し込みください。
〆切は7/25(木)。
- お問い合わせ 大阪府立今宮高等学校 TEL 06-6641-2612 (FAX 06-6645-7608)
国語科 小山 秀樹まで



<今宮HP
QRコード>

大阪国語教育アセンブリー

検索